



FUJI

2026 AUTOBACS SUPER GT Round 04

2026 SUPER GT 第4戦 富士スピードウェイ
8月1日(土)～2日(日)

PRACTICE 公式練習

8月1日(土) 天候：晴れ/路面：ドライ

2026年のSUPER GTは、5月に行われた第2戦の後、第3戦マレーシアが延期になったことから、約3ヶ月のインターバルがあった。多くのファンにとっても、そしてTEAM ENEOS ROOKIEにとっても待望の第4戦が、いよいよ8月1日(土)に幕を開けた。

舞台は第2戦と同じ富士スピードウェイだが、季節は夏となり気温も路面温度も大きく上がっているほか、レース距離も第2戦の3時間に対し、300kmと短い距離。そんな一戦に向け、TEAM ENEOS ROOKIEは準備を整え、午前10時30分からスタートした公式練習に臨んだ。夏の日差しがまぶしい晴天で、気温31度/路面温度44度という暑さとなっていた。

今回、TEAM ENEOS ROOKIEは石浦宏明のパートナーとして、鈴木斗輝哉が第1戦以来の復帰となった。チームは若き力の復

活を歓迎し、上位進出を目指し、まずは石浦から ENEOS X PRIME AMG GT3 のステアリングを握りコースイン。午後の公式予選に向けて準備を進めた。

石浦はまず10周をこなし、9周目に1分38秒877というベストタイムを記録すると、鈴木に交代する。4月以来の ENEOS X PRIME AMG GT3 で「個人的にちょっと感覚が戻っているかな? という感じもありましたが、走ればすぐに対応することができました」と順調にペースアップ。一度ピットに戻った後は、ロングランを敢行し、29周ものラップをこなし公式練習を締めくくった。この公式練習でのベストタイムは石浦がマークした1分38秒877で13番手。ストレートスピードにやや苦戦しており、セットアップ改善は必要ではあるものの、それ以上に大きかったのは鈴木とのドライブだった。

「チームの皆さんにたくさんサポートをいただいたおかげで順調にメニューもこなせましたし、レーススペースの確認や予選のセットアップも含め、すごく充実した公式練習を送ることができました」と鈴木は笑顔をみせた。

ベストタイムでは他車に分があり、ライバル勢も速さをみせる中ではあったが、TEAM ENEOS ROOKIEは午後に予定される公式予選に向けて、久々のレースウィークを順調に終えた。



QUALIFY 公式予選

8月1日(土) 天候:曇り/路面:ドライ



厳しい暑さとなった午前の公式練習の後、富士スピードウェイの暑さはなかなか和らぐことはなく、午後2時20分から行われた公式予選も気温32度/路面温度45度という厳しいコンディションのなかで行われた。

午前の公式練習では予選に向けてしっかりとセットアップを進めていた ENEOS X PRIME AMG GT3 は、石浦が Q1 のアタッカーを担当。B組から Q2 進出を目指した。5 周目、1 分 37 秒 678 を記録した石浦は、8 番手でまずはきっちりと Q1 突破を達成。ベテランらしい結果を残した。

そんな先輩の活躍をうけ、Q2 では鈴木が ENEOS X PRIME AMG GT3 をブッシュしてみせる。1 分 36 秒 922 を記録し 7 番手へ。上位入賞が狙える好位置につけた。さらに、第2戦も激しいバトルを展開した #4 メルセデスを上回る位置につけることができた。「石浦さんが Q1 を突破してくれたおかげです」と鈴木も笑顔をみせた。

一方の石浦は予選後「2 番手まで 0.1 秒ほどだったので、その点はちょっと悔しいですね」と僅差のなかでのタイムに苦笑いを浮かべた。

チームには良い雰囲気がかかっていた。

RACE 決勝レース

8月2日(日) 天候:雨〜曇り/路面:ウエット〜ドライ

公式予選から一夜明けた8月2日(日)、富士スピードウェイは雲が多いなかで迎えた。気温34度/路面温度47度というコンディションのもとウォームアップを経てグリッドに並ぶころ、富士にはいきなり雨が降り出した。ところが午後1時30分のスタート直前に雨は止み、今度は日射しが出る。グリッド上でタイヤ選択を悩ませることになったが、鈴木がスタートドライバーを務めた ENEOS X PRIME AMG GT3 は、スリックタイヤを選んだ。

レースはセーフティカースタートとなり、5 周目にまだ濡れた部分があるなかで退去。熱戦が始まった。ただスタート直後、GT500 クラスで大きなクラッシュが発生。いきなりの赤旗中断となった。

レースは午後2時15分にふたたびセーフティカー先導のもと再開された。10 周目にセーフティカーが退去すると、鈴木はまずは7 番手を守りながらレースを進める。ENEOS X PRIME AMG GT3 のフィーリングは予選後から好調で、第2戦で得られたデー

タも活かしながらか改良が進められていたが、鈴木は好ペースで追い上げを開始。13 周目にはまずは #18 メルセデスをかわし6 番手に浮上すると、17 周目には #7 フェラーリ、#6 フェラーリとバトルを展開。一気に4 番

手に浮上する。鈴木勢いは留まるところを知らず、21 周目に #52 GR Supra を、23 周目に #60 LC500 をパス。2 番手までポジションを上げた。

復帰戦で快進撃をみせ、大きなインパクトを残した鈴木は、33 周を終えピットインし石浦に交代する。「急に緊張感が出てきました(笑)」という石浦だったが、ピットアウトすると、タイヤ交換本数を減らした #52 GR Supra が首位に。序盤首位だった #45 フェラーリ、#7 フェラーリ、そして ENEOS X PRIME AMG GT3 という順位となっていた。レース中盤、#52 GR Supra と #45 フェラーリが激しいトップ争いを展開すると、次第に #45 フェラーリの後方に #7 フェラーリ、そして石浦が接近。上位争いは緊迫感あふれる展開となった。

2 番手だった #45 フェラーリは、タイヤのピックアップを拾ってしまい次第にペー



スが苦しくなる。終盤、石浦は #45 フェラーリ、#7 フェラーリとのバトルを展開した。

ここで石浦はベテランらしい技をみせる。3 台のうち、最もタイヤに余裕があったと感じ取ると、60 周目にまずは #7 フェラーリをオーバーテイクしてみせる。これで表彰台圏内の3 番手だ。

さらに石浦は、ファイナルラップの GR コーナーで冷静に #45 フェラーリをオーバーテイク! これで2 番手に浮上し、そのままフィニッシュ。TEAM ENEOS ROOKIE に嬉しいチーム初の2 位表彰台をもたらした。

第2戦富士で小林可夢偉がもたらしたセットアップのヒントが、鈴木と石浦の技によってついに花開いた。そして、それを支えたチーム全体で掴んだ初表彰台となった。TEAM ENEOS ROOKIE は、表彰台のさらにもう一段上を目指す。



VOICE ドライバー／GM／監督コメント



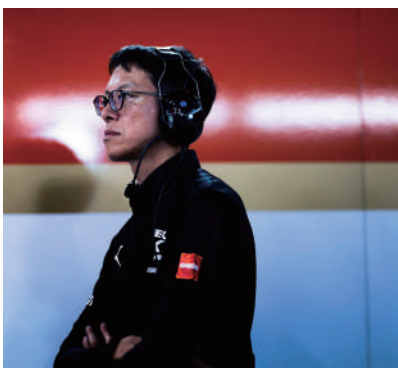
Hiroaki ISHIURA DRIVER 石浦宏明

「目標は表彰台としていたのですが、土曜の公式練習は入賞もできないのではないかと思います。何より鈴木選手のステントが素晴らしすぎました。待っている間に『これは今日は優勝争いをするのかもしれない』と急に緊張感が出てきました（笑）。僕のステントでも最後に見せ場を作ることができましたが、抜くことができたのはクルマとタイヤのおかげでしたし、チームのみんなが取り組んできた成果だと思います。他のどのチームよりも努力してきたと思いますからね。その歩みを止めずにもっと上にいきたいですが、ここからが難しいのが SUPER GT です。これから学びながらやっていきたいと思います」



Tokiya SUZUKI DRIVER 鈴木斗輝哉

「自分としてもこれほど決勝レースで良いペースで走れると思っていませんでした。本当にチームの皆さんが良いクルマを作ってくくださったおかげですし、ブリヂストンさんも素晴らしいタイヤを作ってくくださったと思います。自分としてはまだまだ何もできていないのですが、皆さんのおかげで良いレースができました。途中、#7 フェラーリの梅垣選手とのバトルになりましたが、同じ TGR-DC ドライバーだからというわけではありませんが、ふたりで前に行けたので偶然だな、と思いました。初めての SUPER GT での表彰台でしたが、人も多かったので少し感動しましたね。もちろんまだ優勝という目標がありますが、チーム1年目で表彰台に立てたので、皆さんに感謝したいと思っています」



Yutaka YAMAMURA GENERAL MANAGER 山村豊

「GT300 での初表彰台を嬉しく思います。参戦開始から3戦目で表彰台を獲ることができたのは、モリゾウさんをはじめ、ENEOS さんのお力添えがあってこそ達成できたと思いますし、結果でお返しできて良かったです。今シーズンは3戦目までにいろいろなことがありましたが、2戦目では小林可夢偉選手に助けをもらい、ROOKIE Racing の原点であるピットで初入賞できました。今回はそのフィードバックからさらに積み上げての表彰台だったので、一步一步進んでいく ROOKIE Racing らしいレースができたのかな、と思っています。まずはこの表彰台を喜びたいですが、もうひとつ上に優勝という目標があります。これからもその目標に向けて頑張っていきたいと思います」



Toshiyuki SEKIYA DIRECTOR 関谷利之

「ドライバーふたりが素晴らしい仕事をしてくれましたね。チームとしては若手スタッフも頑張りましたが、まだもう少しやらなければいけないところはあります。その点をドライバーたちがフォローしてくれたと思いますね。今回のクルマの良さは、前回ドライブしてくれた小林可夢偉選手からヒントがありました。土曜の走り出しはうまくいきませんでした。予選に向けてみんなで改善し、セクター3をうまく走れるようにできたと思います。やってきたことがうまく結果に繋がりました。今回は2位という“ご褒美”をもらいましたが、今後もひとつひとつ積み上げていきたいです。斗輝哉選手も帰ってきて良い雰囲気ですし、チーム全員で掴んだ表彰台だったと思います」

PHOTO GALLERY フォトギャラリー



ROOKIE RACING

SUPER GT
GT300 / TEAM ENEOS ROOKIE

Our activities are supported by all partners

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています



aisin



ThreeBond

docomo Business



NSK

